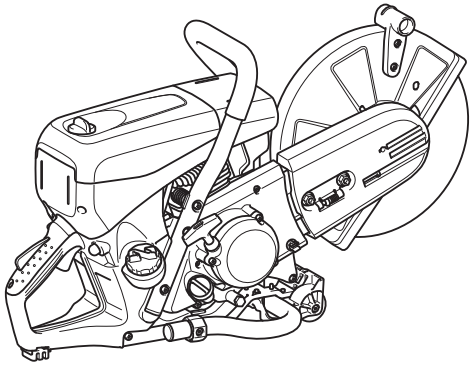
ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

エンジンカッタ

モデル EK7650H
モデル EK7651H



このたびは**エンジンカッタ**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただいて、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願いいたします。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp/

目次

・国内排出ガス自主規制について ----------2
・主要機能----------4
・シンボルマークについて ----------5
・エンジン製品の安全上のご注意 ----------7
・エンジンカッタの安全上のご注意 ----------10
・各部の名称および標準付属品 ----------13
・別販売品のご紹介----------14
・使用準備----------15
1. ホイールカバーの取り付け位置 ----------15
2. 刃物の取り付け方 ----------18
・運転を始める前に----------20
1. エンジンオイルの点検・補給----------20
2. 燃料の補給----------22
3. スイッチの操作----------23
4. 始動----------24
5. 停止----------25
・切断作業----------26
1. ホイールカバーの調節 ----------26
2. 切断方法 ----------26
・点検と整備----------27
1. V ベルトの張り調整----------27
2. V ベルトの取り替え----------28
3. 燃料タンクフィルタの清掃と取り替え ----------28
4. フィルタの清掃と取り替え ----------29
5. スパークプラグの点検と整備----------32
6. アイドリングの調整----------33
7. エンジンオイルの交換 ----------34
8. スタータの清掃----------36
9. メンテナンス表----------37
10. トラブルシューティング（故障かなと思ったら）----------38
・格納方法----------40
・ご修理の際は----------40

主要機能

項目＼モデル			EK7650H	EK7651H
エンジン	型式		空冷 4 ストローク単気筒 OHV ガソリンエンジン	
	排気量		75.6 mL	
	最高回転数		9,100 min^{-1}（回転 / 分）	
	キャブレタ		ダイヤフラム式	
	点火方式		電子式	
	スパークプラグ		NGK CMR6H	
	始動方式		リコイル方式	
	クラッチ		自動遠心式	
	使用燃料		自動車用ガソリン	
	燃料タンク容量		1.1 L	
	使用潤滑油（エンジンオイル）		API 分類 SF 級以上の SAE10W-30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）	
	潤滑油量		0.22 L	
刃物回転数			4,300 min^{-1}（回転 / 分）	
使用できる刃物	ダイヤモンドホイール	外径	305 mm	355 mm
		内径	20 mm、22 mm、25.4 mm、30.5 mm	
最大切り込み深さ			97 mm	122 mm
本機寸法（全長×幅×全高）			761 mm × 310 mm × 435 mm	780 mm × 310 mm × 455 mm
質　量（刃物無し）			12.7 kg	12.9 kg
振動 3 軸合成値			2.5 m/s^2	
K 値			1.5 m/s^2	

- 振動 3 軸合成値は、JIS B7762-12:2006 規格に基づき測定。
- 振動 3 軸合成値についての詳細は JEMA〔(社) 日本電機工業会〕ウェブサイト：(http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html) をご参照ください。
- 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

⚠ 警告

・本機は、切断砥石を使用できません。

シンボルマークについて

・ 製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解の上ご使用ください。

保護メガネ、耳栓、保護帽などの保護具を着用してください。

自動車用ガソリンを入れてください。

通気の悪い場所では運転しないでください。

チョーク、運転、停止切り替えスイッチ。

燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。

エンジンを停止できます。

燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。

刃物の回転方向

注意文の ⚠警告 ・ ⚠注意 ・ 注 の意味について

ご使用上の注意事項は ⚠警告 と ⚠注意 ・ 注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 ：誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
なお ⚠注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注 ：製品および付属品の取り扱いなどに関する重要なご注意。

エンジン製品の安全上のご注意

- 引火、火災、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「エンジン製品の安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「エンジン製品の安全上のご注意」をすべてをよくお読みの上、正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ほかの人に貸し出す場合は、一緒に取扱説明書もお渡しください。

⚠ 警告

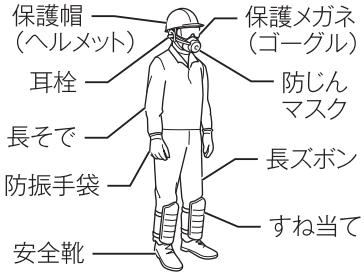
1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
   - 本機の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。

2. 事故の原因になります。次のときは本機を使用しないでください。
   - 疲れているとき、身体が不調なとき。
   - 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。

3. 使用時は常に防振手袋、保護メガネ、耳栓、保護帽（ヘルメット）を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
   - けがの原因になります。

   また手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。袖や裾の締まりのよい服装をしてください。
   - 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

   身体を冷やさないような服装で作業してください。



4. エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で、使用しないでください。
   - 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。

5. 作業場は十分明るくしてください。
   - 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。

⚠ 警告

6. **雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。**
・ 転倒して、けがの原因になります。

7. **燃料の取り扱いには十分注意してください。**
・ 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。
8. **引火・火災の恐れがあります。**
・ 燃料の持ち運びや保管、取り扱いには十分注意してください。
・ 燃料の給油および本機を使用するとき、手入れをするときなどは、通気のよい場所で行いタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

・ 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
・ 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
・ 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも３ｍ以上離れてください。
・ ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のあるものの近くでは、使用しないでください。
・ マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。
9. **始動時および使用中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。**
・ 感電する恐れがあります。
10. **使用中、本機の調子が悪かったり、異常音が発生したときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止し、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所に点検・修理をお申し付けください。**
・ そのまま使用していると、けがの原因になります。

⚠ 注意

1. 損傷した部品がないか点検してください。
・ 使用前にネジのゆるみがないか、損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
2. 調節キーやレンチなどは、必ず取りはずしてください。
・ 付けたままでは飛び出して、けがの原因になる恐れがあります。
3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。
4. エンジンの始動・使用時は、周囲の人や障害物に十分注意して必ず一人で操作してください。
・ 事故の原因になります。

5. エンジンの始動は、安定のよい場所で行ってください。
・ 事故の原因になります。
6. 使用を中断したり、移動するときは必ずエンジンを停止させてください。また、エンジンをかけたまま放置しないでください。
・ エンジンをかけたままですと、事故の原因になります。

7. 使用時およびエンジン停止直後は、マフラなどの高温部に身体が触れないように注意してください。
・ やけどの原因になります。
8. スパークプラグ点検整備時、シリンダー内の残留ガスに引火する場合がありますので、スパークプラグ取り付けネジ部にはスパークプラグを接触させないでください。
また、スパークプラグの金属部に触れながらスタータハンドルを引かないでください。
・ やけどの原因になり、また感電する恐れがあります。
9. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また､スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。
・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による、事故の原因になります。

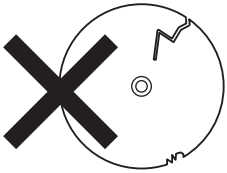
10. 付属品および交換される部品は、必ず指定されたマキタ純正品をご使用ください。
・ マキタ純正部品以外のものを使用されますと、事故やけがの原因となる恐れがあります。
11. 長時間ご使用にならないときは、燃料を全部抜き乾燥したきれいな場所に格納してください。
12. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店、またはお近くの当社営業所にお申し付けください。
・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと事故やけがの原因になります。

エンジンカッタの安全上のご注意

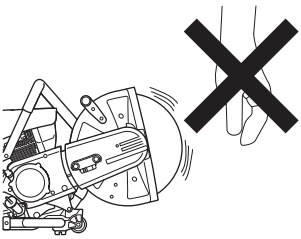
・ 先にエンジン製品としての共通事項を述べましたが、エンジンカッタとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

⚠ 警告

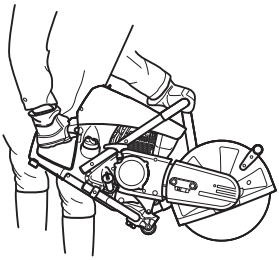
1. ホイールカバーは必ず付けて使用してください。
・ 刃物が破損したとき、けがの原因になります。
2. 刃物にひび、割れなど異常がないことを確認してから使用してください。
・ 異常があると刃物が破損し、けがの原因になります。



3. 回転している刃物類に手や顔、衣服などを不用意に近づけないでください。
・ けがの原因になります。



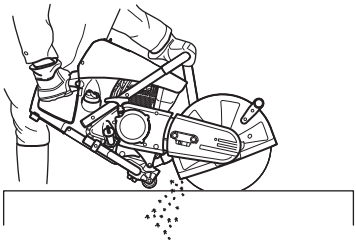
4. 本機は両手で確実に保持してください。またハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。
・ 確実に保持していないとけがの原因になります。



5. 本機は、切断砥石を使用できません。
・ 切断砥石が破損した際に、けがの原因になります。
6. 切断中に本機をこじたり、強く押さえたり無理な操作をしないでください。
・ 本機に強い反発力が生じたり、また刃物類が破損し、けがの原因になります。

⚠ 警告

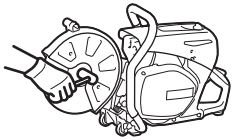
7. 切断粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは、遠ざけてください。また切断火花を直接手足などに当てないようにしてください。
・ 引火や火災、やけどの原因になります。



8. 誤って落としたり、ぶつけたときは、刃物や本機などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
・ 破損や亀裂、変形があると事故の原因になります。

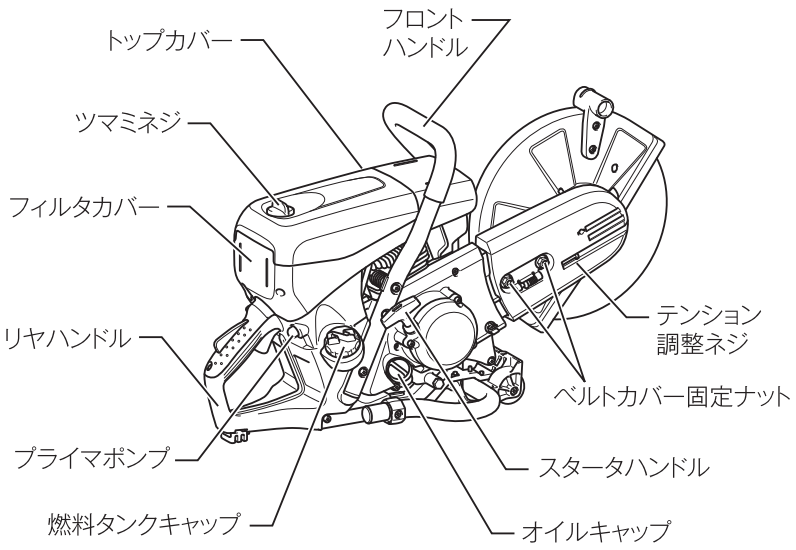
⚠ 注意

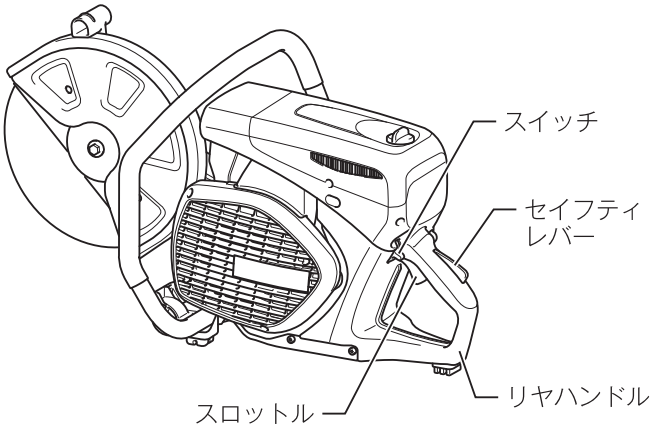
1. 試運転を励行してください。
   試運転時間は、
   (その日の作業始めのとき…1 分間以上)
   です。
   ・ 試運転せずに作業を開始すると思わぬ事故の原因になります。
2. 刃物類や付属品は取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
   ・ 確実でないとはずれたりし、けがの原因になります。



3. 指定以外の刃物（丸ノコ刃､チップソー、切断砥石など）での切断作業はしないでください。
   ・ 丸ノコとしての保護装置がなく、けがの原因になります。
4. エンジンを始動させる前に、刃物類が地面やその他障害物に触れていないことを確かめてください。
   ・ 刃物類が地面やその他障害物に触れていると事故の原因になります。
5. エンジンが始動すると同時に刃物が回転します。周囲の人や障害物に十分注意してください。
   ・ けがの原因になります。
6. 切断直後の金属材料は高温になっていますので、触れないでください。
   ・ やけどの原因になります。

各部の名称および標準付属品





標準付属品

- 付属品収納袋（ボックスレンチ 13-16、星型レンチ、マイナスドライバ入り）
- リング 20（外径 Φ 22、Φ 25.4、Φ 30.5）
- 保護メガネ
- オイルボトル（4 ストロークエンジンオイル 220 mL 入）
- ウォータセット（湿式切断作業用）
- プレフィルタ

別販売品のご紹介

・ V ベルト
部品番号 225094-6

・ オイルボトルセット
部品番号 195532-1

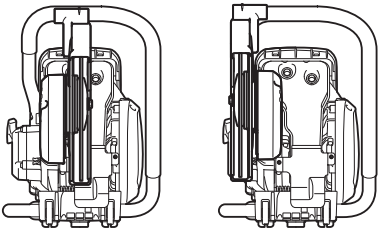
・ フィルタセット品
（プレフィルタ 5 コ、エアフィルタ 1 コ、ダストバッグフィルタ 1 コ）
部品番号 195599-9

・ 刃物

タイプ / 用途		寸法（mm）					部品番号	適用モデル	
		外径	厚み	高さ	内径	リング内径		EK7650H	EK7651H
ダイヤモンドホイール	コンクリート用レーザーブレード	305	2.8	5.5	30.5	20, 22, 25.4	A-57582	○	
		305	2.7	6	30.5	20, 22, 25.4	A-04911	○	
		305	2.8	6.5	30.5	20, 22, 25.4	A-36382	○	
		355	3.2	6.5	30.5	22, 25.4	A-36625		○
	アスファルト用	305	3.0	8	25.4	22	A-03470	○	
	金属溶着ダイヤモンドホイール	305	3.2	8	30.5	22, 25.4	A-36631	○	
		350	3.2	8	30.5	22, 25.4	A-36647		○
	正配列レーザーブレード	305	2.8	9.7	30.5	20, 22, 25.4	A-53861	○	
		355	3.0	9.7	30.5	22, 25.4	A-53877		○

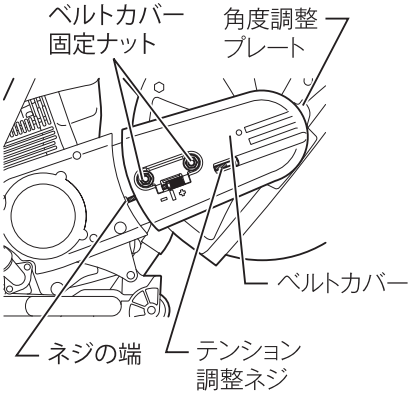
1. ホイールカバーの取り付け位置

・ 本機は切断装置部が、図 A の位置に取り付けてあります。図 B の位置に取り付ける場合は、次の手順で取り付けてください。

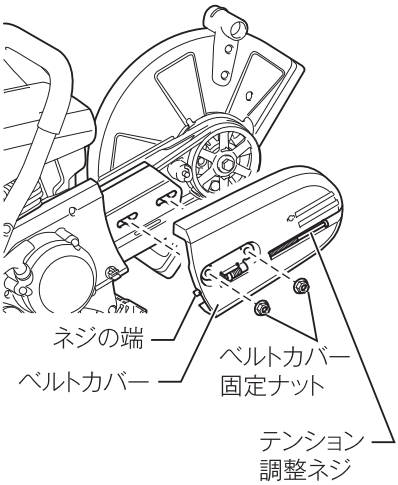


B の位置に取り付ける場合

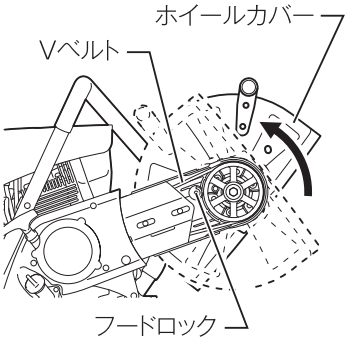
（1）ベルトカバー固定ナットをゆるめ、テンション調整ネジをネジの端が見えるまで左に回します。



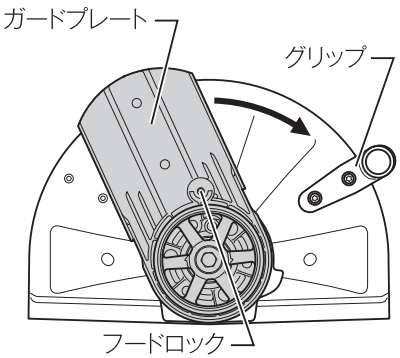
（2）ベルトカバー固定ナットを取りはずし、ベルトカバーを取りはずします。



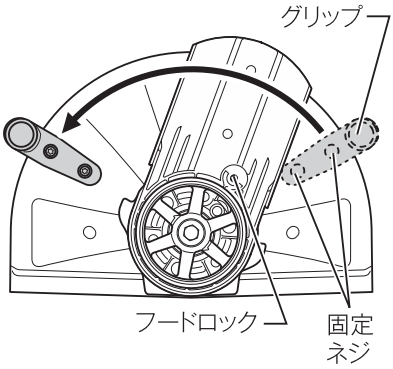
(3) プライヤなどでフードロックを引きホイールカバーを破線の位置まで回転させます。Vベルトをはずして、切断装置部を本機より取りはずします。



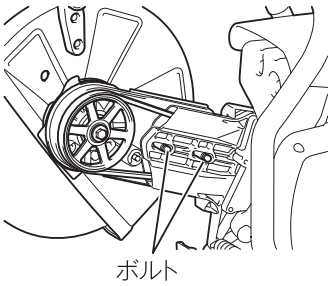
(4) ホイールカバーを持ち、ガードプレートがグリップに当たるまで回転させます。
(5) フードロックを元の位置に戻します。



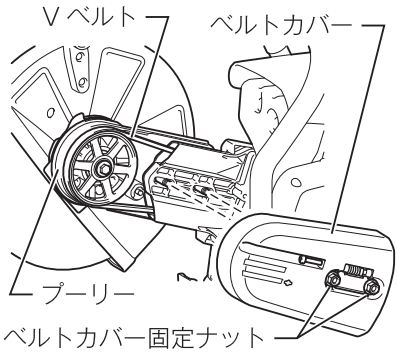
(6) グリップの固定ネジをはずし、グリップの位置を付け替えます。



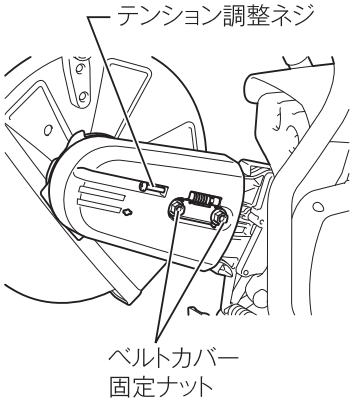
(7) 図のように切断装置部を反転させ、ボルトを本機の取り付け穴に通し固定します。



(8) V ベルトをプーリーに取り付け、ベルトカバーをベルトカバー固定ナットで軽く手締めします。



(9) テンション調整ネジを回し、V ベルトを張ってください。V ベルトを張り終えましたら、ベルトカバー固定ナットをしっかり締め付けてください。



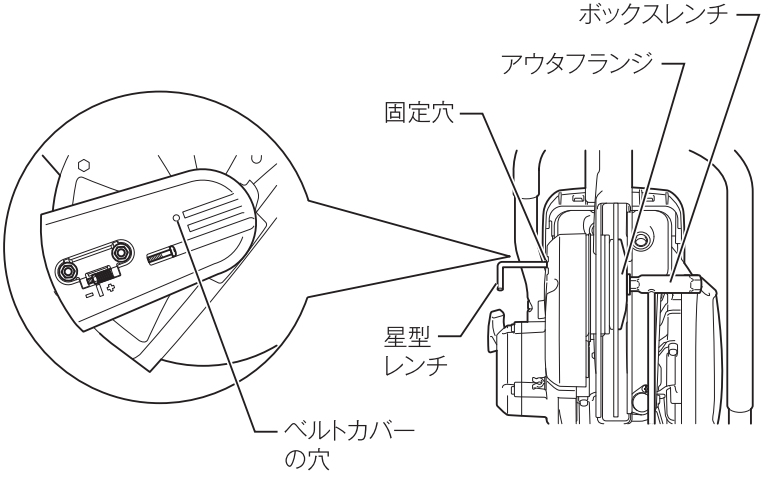
2. 刃物の取り付け方

⚠ 警告

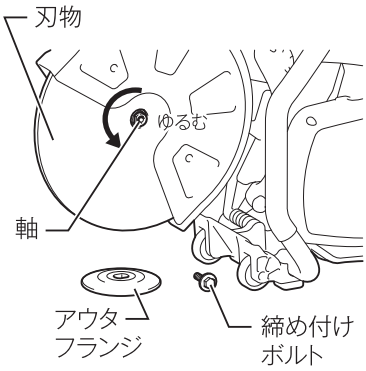
刃物を取り付けるときは、本機に付いている矢印と刃物に付いている矢印の方向を合わせてください。

・ 矢印に合わせないと、刃物の回転方向が逆回転となり、刃先を傷めたり、けがの原因になります。

（1）ベルトカバーの穴に星型レンチを差し込み、軸を固定してください。
このとき給水セット用のホルダが付いていればはずしてください。



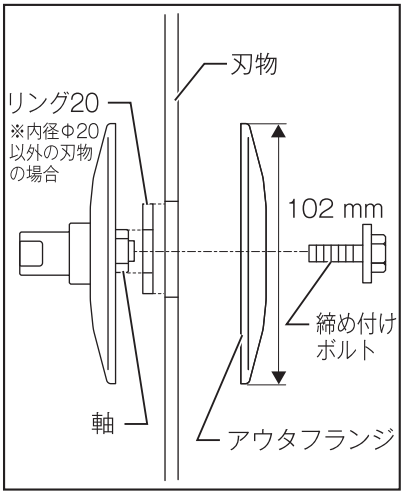
（2）この状態でボックスレンチを使って、締め付けボルトを左に回して締め付けボルト、アウタフランジをはずします。



(3) 内径Φ 20 の刃物を使用する場合
刃物を軸にはめ込み、軸とアウタフランジの切り欠き部を合わせ、締め付けボルトを右に回してしっかり締め付けてください。

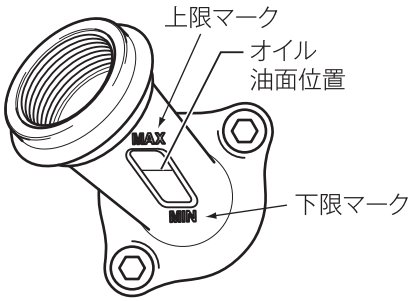
内径Φ 20 以外の刃物を使用する場合
刃物の内径に合った付属のリングを軸にはめ込んだ後、刃物を軸にはめ込み、軸とアウタフランジの切り欠き部を合わせ、締め付けボルトを右に回してしっかり締め付けてください。

締め付けトルクは 25 ～ 31 N·m

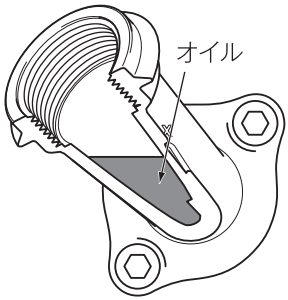


1. エンジンオイルの点検・補給

- エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。
- 製品を水平にし、オイル給油口の側面にある上限・下限マークの範囲内にオイルがあるか点検してください。
- 不足している場合（オイル油面位置が下限マーク以下の場合）、上限位置までオイルを補給してください。



- 外側のマークで囲まれる部分は中のオイルが透けて見えるので、オイルキャップをはずさなくても外からオイル量を確認できます。



- 参考として、オイルの補給時間は約 10 時間（燃料給油回数で、10 回（10 タンク））です。
- エンジンオイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は 34 ページ参照）。

《推奨オイル》- - - - API 分類 SF 級以上の SAE10 W － 30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）を使用してください。

《オ イ ル 量》- - - - 0.22 L（220 mL）

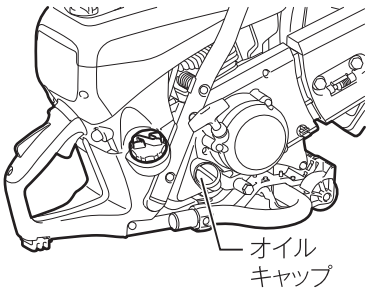
注

- **本機を正立以外の姿勢で保管されていた場合、エンジン内にオイルが回ってしまい、補給の際オイル入れ過ぎになってしまいます。**
- **オイル量が上限を超えますとオイル漏れによる汚損や白煙の原因となります。**

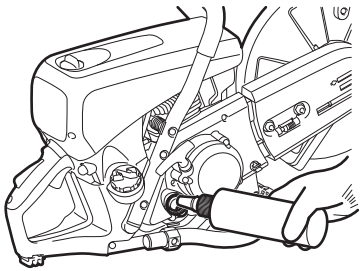
エンジンオイル点検・補給のポイント 1《オイルキャップ》

- オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルキャップをはずしてください。
- 取りはずしたオイルキャップは、砂・ゴミなどが付かないようにしてください。
  もしこれらが付いたまま組み付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となります。

(1) 本機を水平にし、オイルキャップをはずしてください。



(2) オイルを注入口より、オイルタンクの上限下限マークの範囲内で補給してください。注入のときは、オイルボトルを使用して給油口に粉じんなどゴミが入らないように注意してオイルを注入してください。
(3) オイルキャップを確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。



エンジンオイル点検・補給のポイント 2《オイルをこぼしてしまったら…》

- 燃料タンクとエンジン本体の間にオイルをこぼしてしまった場合、そのまま運転すると、引火や冷却風取り入れ口よりオイルを吸い込み汚れの原因となります。必ずこぼしてしまったオイルを拭き取ってから運転してください。

2. 燃料の補給

⚠ 警告

燃料の給油をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。

- 火気のない所で行ってください。またタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- 換気のよい所で行ってください。

燃料の取り扱いには十分注意してください。

- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。身体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

《燃料の保管期間》

- 燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管した場合で 4 週間以内に使い切ることが目安です。専用容器でないとき、栓をしないときなど、夏場では 1 日で劣化する場合があります。

本機および燃料専用容器の保管方法について

- 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

《燃料について》

- このエンジンは 4 ストロークエンジンです。自動車用ガソリン（ レギュラーガソリン）を燃料として運転してください。

燃料のポイント

- ガソリンに 2 ストロークエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となります。
- 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

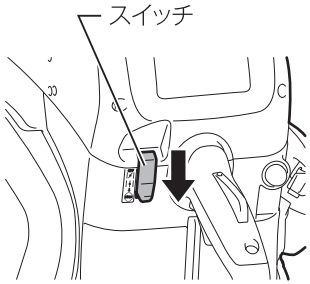
《給油について》
・ 燃料の給油は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

給油手順
次の手順で燃料を補給してください。
（1）燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部との気圧差を無くします。
（2）燃料タンクキャップをはずし、補給します。（ 給油口いっぱいまで入れないでください。）
（3）補給後、燃料タンクキャップをしっかり締め付けてください。
・ 燃料タンクキャップは消耗品です。点検して異常が認められたら交換してください。（交換の目安：２～３年）

3. スイッチの操作

・ 本機のスイッチは３段階に切り替えるようになっています。

チョーク	
運　転	
停　止	



・ スイッチの機能をよく理解してお使いください。

4. 始動

⚠ 警告

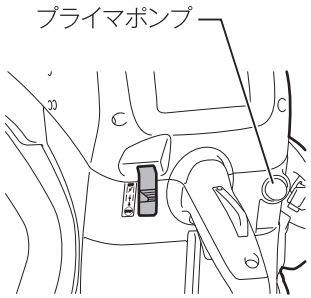
燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも３ｍ以上離れてください。
・ 引火、火災の原因になります。

⚠ 注意

エンジンを始動させる前に、刃物類が地面やその他障害物に触れていないことを確かめてください。
・ 刃物類が地面やその他障害物に触れていると事故の原因になります。

①エンジンが冷えている場合の始動

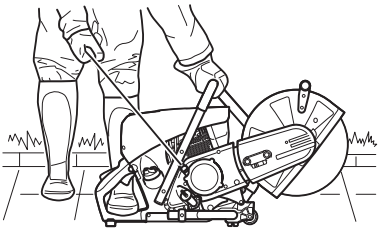
(1) 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押してください。
(2) スイッチを「チョーク」 の位置にしてください。
(3) リヤハンドルを足で押さえ、片手でフロントハンドルをしっかり押さえます。
(4) スタータハンドルを勢いよく引き出し、最初の爆発音がするまで繰り返してください。
(5) 最初の爆発音がしたら、スイッチを「運転」 の位置に切り替えてください。



(6) 再び、本機をしっかり押さえ、スタータハンドルを勢いよく引いてください。

暖機運転

- エンジンが始動したらセイフティレバーを押さえたまま１～２分間スロットルを引いて、中速域一定回転を保持した状態で暖機運転してください。
- エンジンの回転が安定し、低速から高速回転にしたときに、滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。



②エンジンが暖まっている場合の始動

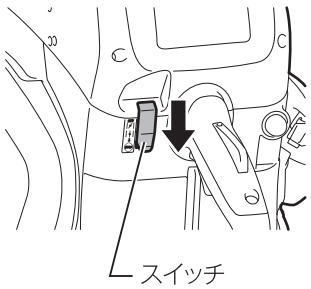
- プライマポンプを数回押します。始めからスイッチを「運転」の位置に倒し、本機をしっかり押さえ、スタータハンドルを勢いよく引いてください。

注

- 「チョーク」の位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けますと、燃料を吸い込み過ぎて始動しにくくなります。
- 燃料を吸い込み過ぎたときには、スパークプラグをはずして、スタータハンドルをゆっくり数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- スタータハンドルを最後まで引ききらないでください。ロープの寿命が短くなります。また、スタータハンドルは急に手放さず静かに戻してください。
- 無負荷高速運転（空ふかし）はエンジンの寿命が短くなるのでむやみに行わないでください。

5. 停止

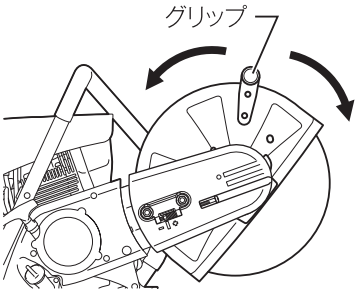
- エンジンを停止させるときは、スロットルを戻し、スイッチを「停止」(STOP)の位置にしてください。



切断作業

1. ホイールカバーの調節

・ ホイールカバーはグリップを持って矢印方向に動かすことができます。



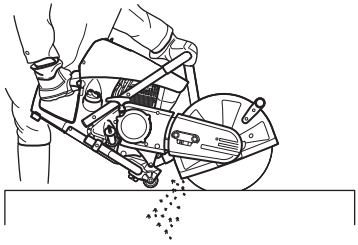
2. 切断方法

⚠ 警告

切断中に本機をこじたり、強く押さえたり、無理な作業をしないでください。

・ 本機に強い反発力を生じたり、また刃物類が破損し、けがの原因になります。

・ エンジンを始動させてください。
・ ハンドルを両手でしっかり握り、中速で切断材料に最初の切り込みを入れてください。次にスロットルを全開にして、本機を静かに引きながら（または、押しながら）まっすぐ切断してください。
・ 切断が終了しましたらスロットルを戻し、エンジンを停止させてください。



⚠ 注意

点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。またスパークプラグからプラグキャップをはずしてください。

・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。

注

・ **点検整備するときは、本機の汚れを落とし、ゴミやほこりのかからないきれいな場所で行ってください。**

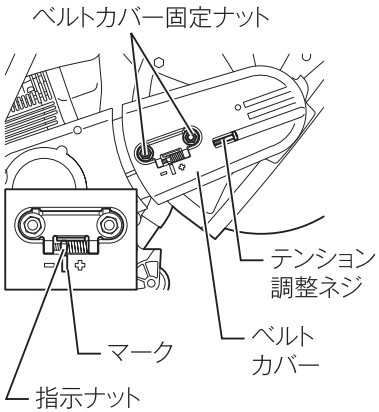
1. V ベルトの張り調整

・ 切断作業中に刃物が簡単に停止するような場合は、V ベルトの張り具合が弱くなっていることが考えられます。このような場合は、次の手順で調整してください。

(1) ベルトカバー固定ナットをゆるめてください。

(2) テンション調整ネジを指示ナットがマークの位置にくるまで右（時計方向）へ回して V ベルトを張ってください。

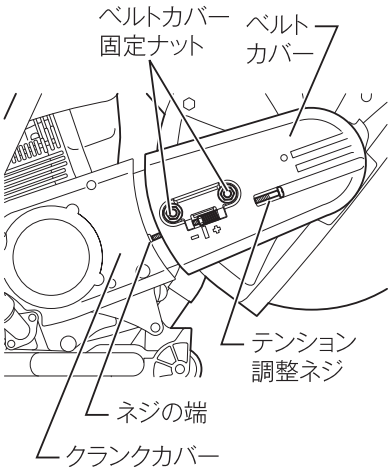
(3) V ベルトを張り終えましたらベルトカバー固定ナットをしっかり締め付けてください。



・ V ベルトの張りを調整しても作業中に刃物が簡単に停止するような場合は、V ベルトを点検し、必要であれば新品と交換してください。

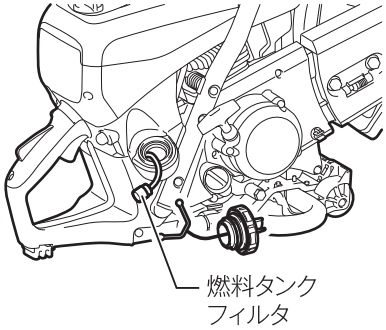
2. V ベルトの取り替え

(1) ベルトカバー固定ナットをゆるめ、テンション調整ネジをネジの端が見えるまで、左に回します。
(2) ベルトカバー固定ナットをはずし、ベルトカバーを取りはずします。
(3) さらに 3 本の取付ネジをはずし、クランクカバーを取りはずします。
(4) 古い V ベルトを取り除き、新しい V ベルトを取り付け、クランクカバー、ベルトカバーの順に組み付けます。
(5)「V ベルトの張り調整」の要領で、張り具合を調整してください。
V ベルト（交換用）
部品番号：225094-6



3. 燃料タンクフィルタの清掃と取り替え

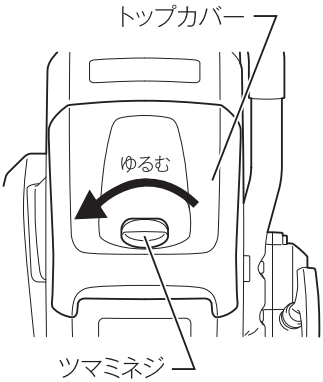
・ 燃料タンクフィルタが詰まるとエンジン不調やエンジン故障の原因になります。定期的に点検してください。
(1) 燃料タンクキャップをはずしてガソリンを抜いてください。
(2) 次に針金などを使ってフィルタを燃料注入口から引き出し、ガソリンでよく洗ってください。
(3) 汚れがひどいときは、燃料管からフィルタを引き抜いて新品と交換してください。



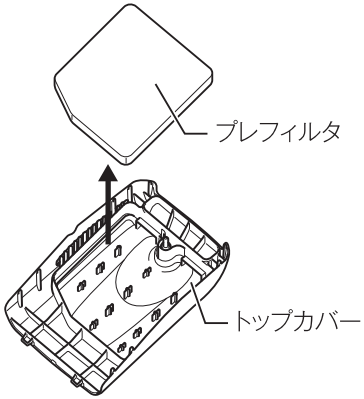
4. フィルタの清掃と取り替え

・ フィルタが目詰まりするとエンジン不調の原因となります。作業終了後には、次の要領で清掃してください。

(1) ツマミネジを左に回し、トップカバーをはずします。



(2) トップカバーからプレフィルタをはずします。

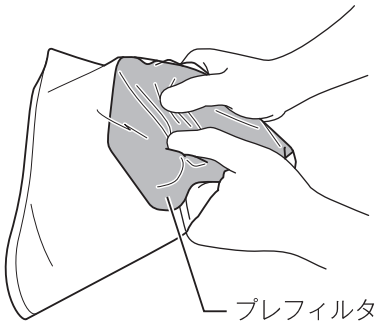


(3) プレフィルタは流水か中性洗剤で洗い、よく乾かしてください。

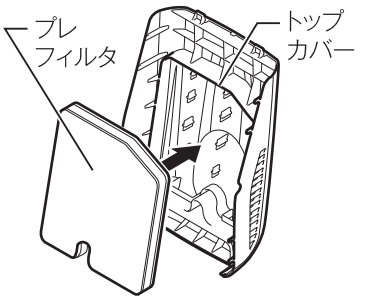
注

・ プレフィルタを強くこすったり、ねじったりしないでください。破損する恐れがあります。

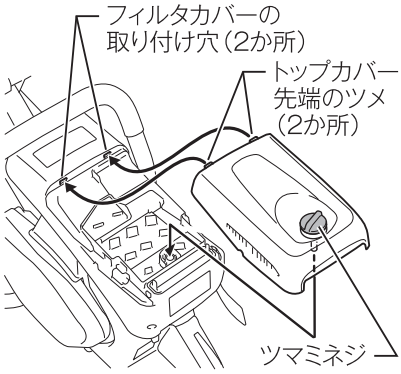
(4) 2ストロークエンジンオイル 40 mL を均一になじませます。



(5) プレフィルタをトップカバーの枠内に奥まではめ込みます。

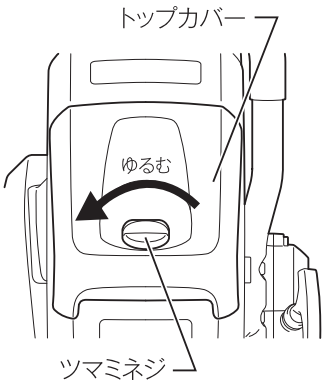


(6) トップカバー先端のツメ（2 か所）をフィルタカバーの取り付け穴（2 か所）に差し込み、ツマミネジを右に回してしっかりと締め付けます。

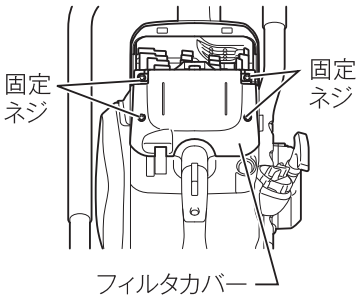


※通常はプレフィルタの清掃のみですが、メンテナンス表の点検時期になりましたら、上記の作業に加えて以下の作業を行ってください。

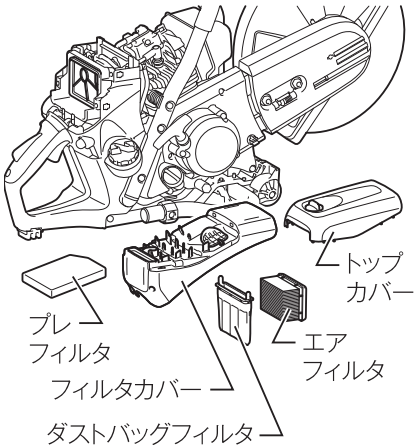
(1) ツマミネジを左に回し、トップカバーをはずします。



(2) フィルタカバーの固定ネジ４本をはずします。
(3) フィルタカバーをはずします。



(4) エアフィルタおよびダストバッグフィルタをはずします。



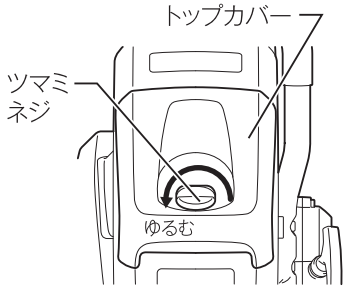
(5) エアフィルタおよびダストバッグフィルタは、軽く叩くかまたはコンプレッサを使用してゴミやほこりを落としてください。コンプレッサを使用するときは、粉じんで汚れている面を下向きにして、フィルタのキャブレタ側から空気を吹き付けてください。
(6) フィルタの清掃が終わりましたら、元に戻してください。フィルタカバーの組み付けの際は、先にエアフィルタをフィルタカバーに組み付け、その後で本機に取り付けてください。

注

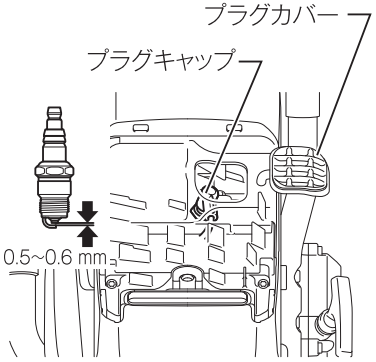
- **エアフィルタは絶対に水洗いをしないでください。**
- **使い古したフィルタや破損したフィルタは、新品と交換してお使いください。**
- **フィルタはガソリンなどの油で洗わないでください。**

5. スパークプラグの点検と整備

(1) ツマミネジを左に回し、トップカバーをはずしてください。

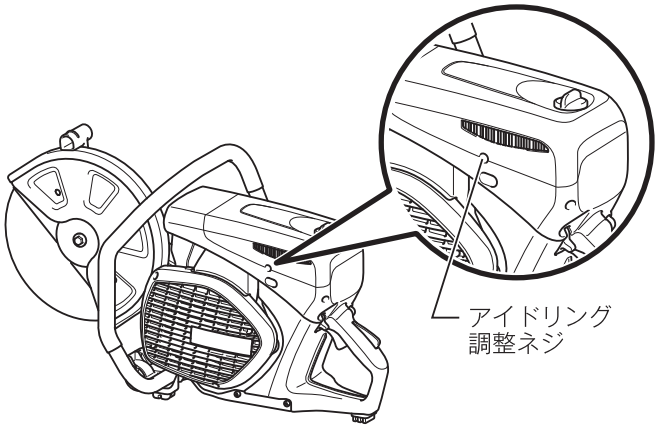


(2) プラグカバーを開け、プラグキャップをはずし、ボックスレンチでスパークプラグをはずしてください。
(3) 電極の隙間が 0.5 ~ 0.6 mm になっているか点検してください。もし広がり過ぎたり、狭過ぎる場合は調整してください。
(4) カーボンが溜まったり、汚れている場合はワイヤーブラシなどできれいにしてから取り付けてください。またひどく摩耗したり、焦げているものは新品と交換してください。
(5) スパークプラグ点検後は、プラグキャップとプラグカバーを取り付けトップカバーを取り付けてください。



6. アイドリングの調整

- キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリング以外は調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、お近くの当社営業所にお申し付けください。
- 暖機運転後にスロットルレバーを戻し、アイドリング状態にしても刃物が回転し続ける場合は異常です。
  このような場合には次の要領でアイドリング調整を行ってください。
- 調整は図のアイドリング調整ネジを回してください。調整ネジは、右に回すと回転が上がり､左に回すと回転が下がります。調整が困難な場合は、お近くの当社営業所にお申し付けください。



7. エンジンオイルの交換

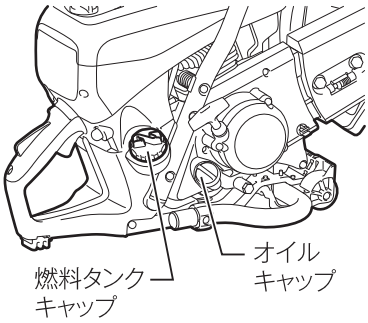
エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。
交換時期、オイル量を守ってください。

⚠ 警告

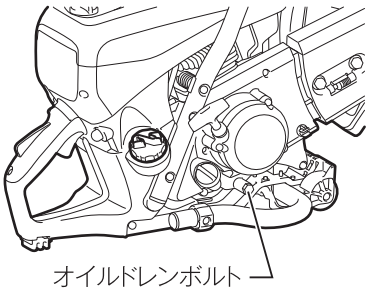
エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。また停止直後はオイルケース内にオイルが戻りきらないため、オイル入れ過ぎの原因になります。
オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因になります。

《交 換 時 期》- - - - - 初回 20 時間運転、その後 30 時間運転毎
《推奨オイル》- - - - - API 分類 SF 級以上の SAE10 W － 30 オイル（自動車用 4 ストロークエンジンオイル）を使用してください。
交換に際しては、次の要領で行ってください。

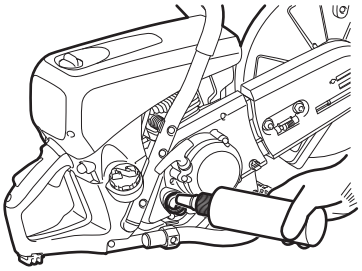
（1）燃料タンクキャップとオイルキャップが締め付けられていることを確認します。



（2）オイルドレンボルトをはずし、オイルを抜きます。オイルは容器などに受けてください。



(3) オイルドレンボルトをしっかり締めます。
(4) 本機を水平にし、オイルキャップをはずし、新しいオイルを注入します。注入のときは、オイルボトルを使用してオイルを注入してください。
(5) 注入後、オイルキャップがゆるまない様に確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。



エンジンオイル点検・補給のポイント 1《オイルキャップ》

- オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルキャップをはずしてください。
- 取りはずしたオイルキャップは、砂・ゴミなどが付かないようにしてください。
  もしこれらが付いたまま組み付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となります。

エンジンオイル点検・補給のポイント 2《オイルをこぼしてしまったら…》

- 燃料タンクとエンジン本体の間にオイルをこぼしてしまった場合、そのまま運転すると、冷却風取り入れ口よりオイルを吸い込み汚れの原因となります。必ずこぼしてしまったオイルを拭き取ってから運転してください。

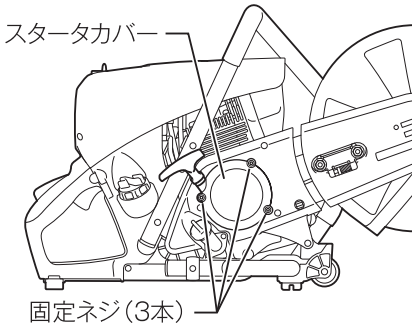
エンジンオイルの交換の注意

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適切に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談の上、処理をしてください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。(6 ヶ月に 1 回は新しいオイルと交換してください。)

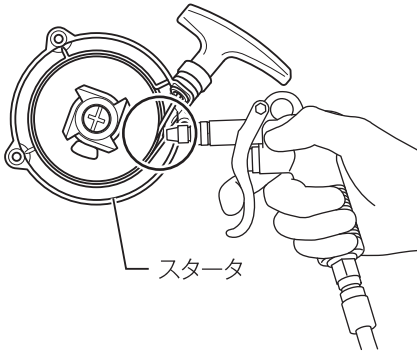
8. スタータの清掃

スタータロープが元の位置に戻らないなど、スタータが正常に作動しない場合はスタータとクラッチを清掃します。

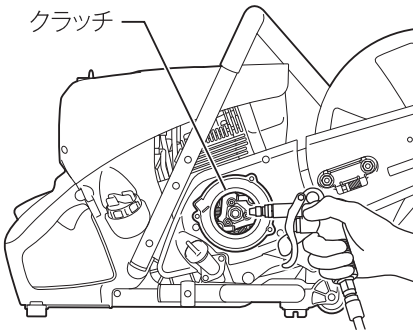
（1）スタータカバーの固定ネジ（3 本）をはずします。



（2）スタータの清掃をします。



（3）クラッチの清掃をします。
（4）清掃後、スタータカバーを取り付けます。



9. メンテナンス表

項目＼運転時間		作業前	給油後	毎日（10時間使用後）	20時間	30時間	50時間	200時間	保管前	記載ページ
エンジンオイル	点検 / 補給	○								20
	交換					○ *1				
締め付け部品（ボルト・ナット）	点検	○								—
燃料タンク	清掃 / 点検	○								—
	燃料を抜く								○ *3	40
V ベルト	点検 / 調整	○								27
スロットルレバー	機能チェック		○							—
停止スイッチ	機能チェック		○							25
刃物	点検	○		○						10
アイドリング時の速度	点検 / 調整			○						33
エアフィルタ	清掃 / 交換						○			31
ダストバッグフィルタ	清掃 / 交換				○					
プレフィルタ	清掃 / 交換			○						29
スパーク プラグ	点検 / 調整			○						32
冷却風通路およびシリンダフィン	清掃 / 点検			○						—
燃料パイプ	点検			○						
	交換							◎ *2		
燃料フィルタ	清掃 / 交換						○			28
吸・排気弁の隙間	点検 / 調整							◎ *2		—
キャブレタ	燃料を抜く								○ *3	40

*1　初回は 20 時間後に交換してください。
*2　200 時間点検は販売店もしくは当社営業所にご用命ください。
*3　燃料タンクの燃料をすべて抜いた後、エンジンを回してキャブレタから燃料を抜いてください。

10. トラブルシューティング（故障かなと思ったら）

修理をお申し付けいただく前にご確認ください。
もし異常がある場合、記載説明に従って対処してください。
記載説明に反して決して本機をいじったり、分解しないでください。
修理は販売店、もしくは当社営業所にお申し付けください。

不具合の状況	原因	対応
エンジンが始動しない。	プライマポンプの作動不足。	7 ～ 10 回押してください。
	スタータロープの引き速度が遅い。	勢いよく引き出してください。
	燃料切れ。	燃料を給油してください。
	燃料フィルタの目詰まり。	清掃してください。
	燃料チューブが折れている。	折れ目を直してください。
	燃料が古い。	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。（約 1 ヶ月が目安です）
	燃料の吸い込み過ぎ。	スパークプラグをはずし、電極を乾燥させ、元通りに組み立てた後、記載通りに始動操作を行ってください。
	プラグキャップがはずれている。	確実に取り付けてください。
	スパークプラグの汚れ。	清掃してください。
	スパークプラグ電極の隙間の異常。	隙間を調整してください。
	スパークプラグのその他の異常。	交換してください。
	キャブレタの異常。	点検整備をお申し付けください。
	スタータロープが引けない。	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常。	点検整備をお申し付けください。
	クラッチ周辺部の汚れ。	クラッチ周辺部を清掃してください。
エンジンは作動するが、刃物が回転しない。 ↓ 直ちにエンジンを止めてください。	クラッチの損傷。	点検整備をお申し付けください。
	V ベルトの張力不足。	V ベルトの張りを確認してください。 V ベルトに損傷があれば交換してください。

不具合の状況	原因	対応
エンジンは作動するが、刃物が回転しない。 ↓ 直ちにエンジンを止めてください。	刃物締め付けボルトがゆるんでいる。	しっかり締め付けてください。
	駆動系の異常。	点検整備をお申し付けください。
エンジンがすぐ止まる。 エンジンの回転が上がらない。	暖機不足。	暖機運転してください。
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーを“ ”にしている。	“”にしてください。
	燃料フィルタの目詰まり。	交換してください。
	エアクリーナの汚れ、目詰まり。	清掃してください。
	キャブレタの異常。	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常。	点検整備をお申し付けください。
本機が異常に振動する。 ↓ 直ちにエンジンを止めてください。	刃物の破損、曲がり、または摩耗。	刃物を交換してください。
	刃物締め付けボルトがゆるんでいる。	しっかり締め付けてください。
	駆動系の異状。	点検整備をお申し付けください。
刃物が直ちに止まらない。 ↓ 直ちにエンジンを止めてください。	アイドリング速度が速過ぎる。	調整してください。
	スロットル関係連結部品がはずれている。	点検整備をお申し付けください。
	駆動系の異常。	点検整備をお申し付けください。
エンジンが止まらない。 ↓ エンジンをアイドリングにして、チョークレバーを“ ”にする。	コネクタがはずれている。	確実に組み付けてください。
	電気系の異常。	点検整備をお申し付けください。

その他、本機に不具合や異常がある場合は、点検整備をお申し付けください。

格納方法

⚠ 警告

燃料を抜くときは必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

・ 停止直後では、引火や火災、やけどの原因になる恐れがあります。

⚠ 注意

長期間ご使用にならないときは、燃料を全部抜き乾燥したきれいな場所に格納してください。

・ 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

(1) 燃料タンクキャップをはずし、燃料を抜き、燃料タンクを空にしてください。
(2) この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに取り除いてください。
(3) 燃料フィルタを針金などを使い、給油口から引き出します。
(4) プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜いてください。
(5) 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
(6) エンジンが停止するまで空運転させてください。
(7) スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
(8) スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。
(9) 抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。

ご修理の際は

・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。

メモ

メモ

メモ

882547A4
IWT

株式会社マキタ
愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502
TEL.0566-98-1711（代表）